

図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

ヨコテ



Yokote City Librarians One Hundred Recommended Books 2024



この一行に 逢いにきた

2024・第78回 読書週間
10/27～11/9



たくさんの本の中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館のスタッフ 29 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をししましょう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出合ってほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『ナゾトキ・ジパング』

青柳 碧人/著 小学館 2022



913.6 7

精南大学男子寮の代表となった長瀬は、日本文化を愛する留学生ケビンと同室になる。二人の周りで起こる様々な事件にケビンが「ミョーデス」の台詞と共に挑む。日本の名物名所にまつわる5編の連作短編ミステリー。
(茶トラ)

『ブータン、世界でいちばん幸せな女の子』

阿川 佐和子/著 文藝春秋 2022



913.6 7

42歳の万里子は伯父の入院先で中学校の同級生丹野朋子と再会する。地味で暗く太っていたためブータンとあだ名が付いていた彼女は誰よりも明るくポジティブな女性になっていた。彼女の生き方に元気がもらえる物語。(ゆこりん)

『最悪の将軍』

朝井 まかて/著 集英社 2016



913.6 7

中継ぎとして将軍になった綱吉。兄の家綱に死の間際「泰平の世を」と告げられる。その遺志を継ぎ、文を以て世を治める覚悟を決めた。武から文への政治の転換。犬公方と呼ばれた将軍の知られざる生涯。
(みんと)

『黒と愛』

飛鳥部 勝則/著 早川書房 2010



913.6 7

密室殺人事件が起きたという奇傾城に心霊特番の取材で訪れた探偵の亜久。そこで霊能力者役の全身黒づくめの女子高生黒と出会い、謎に包まれた黒の魅力に惹かれていく。その矢先、新たな密室殺人が起きてしまう。(Y.S)

『思い出リバイバル』

彩坂 美月/著 講談社 2022



913.6 7

後悔の払拭や過去の栄光を求めた人々が「忘れられない思い出を一つだけ再上映できる」という噂を頼りに、映画館へ辿り着く。過去を振り返り思い出を見直し、新たな自分と向き合っていく連作短編。(かばちゃ)

『霧越邸殺人事件』

綾辻 行人/著 祥伝社 2002



913.6 7

猛吹雪に遭い、劇団員たちは謎に満ちた洋館に迷い込む。雪のため閉じ込められた館の中のあちこちに超現実的な現象が……。やがて起こる童謡に見立てた殺人事件。館シリーズ、と双壁とされる、長編ミステリー。
(モフモフ)

『仕事のためには生きてない』

安藤 祐介/著 KADOKAWA 2023

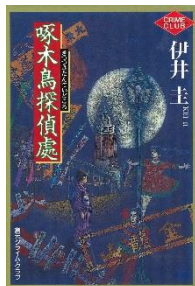


913.67

仕事より趣味のバンド活動を優先してきた多治見勇吉は、会社の不祥事により社長が提案した「スマイルコンプライアンス」に翻弄される。そんな中バンドメンバーの余命宣告を受け、働く意味やどう生きるべきかを考えはじめる。(ㇿ)

『啄木鳥探偵處』

伊井 圭/著 東京創元社 1999



913.67

明治末期の浅草を舞台に石川啄木と金田一京助がバディを組み探偵として謎を解く連作短編集。浅草凌雲閣など当時の建物や娯楽が大胆にトリックに使われる華やかさの一方、罪を犯した犯人の動機はどれも切なく物悲しい。(おこめ)

『真夜中法律事務所』

五十嵐 律人/著 講談社 2023



913.61

検事・印藤はあることをきっかけに幽霊が見えるようになる。死者のために真夜中だけ営業する法律事務所の弁護士・深夜と出会い、死者が成仏するには自分を殺した犯人が有罪判決を受けなければならないことを知る。(茶トラ)

『聴き屋の芸術学部祭』

市井 豊/著 東京創元社 2012



913.61

マイナス思考な画家の先輩や女装趣味の作家など、個性的な芸術家の友人たちに囲まれて、なぜかいつも人の話を聞かされる大学生・柏木君。いつしか悩みを聞くだけでなく、模型破壊事件や殺人事件などの謎解きをするはめに。(モフモフ)

『物件探偵』

乾 くるみ/著 新潮社 2017



913.61

マンションを購入しオーナーになった中山は、早々に雲行きがあやしくなる。そこに突然現れた物件の気持ち分かるという不動尊子とその謎を解き明かしていく。読みながら不動産の知識も得られる6つの短編ミステリー。(こたら)

『てふてふ荘へようこそ』

乾 ルカ/著 KADOKAWA 2011



913.61

激安物件の「てふてふ荘」は各部屋に地縛霊が住むアパート。悩みを抱える住人たちは、同居する霊に後押しされ前向きな気持ちに変わっていく。人間と心が通うことで成仏できる、霊と住人がおりなす温かくも切ない物語。(パセリ)

『雨と短銃』

伊吹 亜門/著 東京創元社 2021



913.6 1

薩長同盟締結の夜、斬り合いの末薩摩藩士は現場から忽然と姿を消した。目撃者の坂本龍馬に依頼された鹿野師光が解決するべく奔走する。藩のため、遺志のために命をかける男たちの生き様を史実と織り交ぜながら描く。(まる。)

『木になった亜沙』

今村 夏子/著 文藝春秋 2020



913.6 1

「誰も自分の手から食べ物を受け取ってくれない」という悲しみを抱え、その生涯を終えた亜沙。木に転生し割りばしとなって、初めて与える幸せを知るが……。表題作ほか、切なくも奇妙な3つの物語。(I.K)

『オオルリ流星群』

伊予原 新/著 KADOKAWA 2022



913.6 1

国立天文台の研究員だった彗子は、雇い止めをきっかけに帰郷し、研究を続けるために自分で天文台を作り始める。それを手伝う同級生達も悩みを抱えていたが、作業をするうちに少しずつ前向きな気持ちになっていく。(りんご)

『歌え、汝龍たりし日々を』

岩井 三四二/著 角川春樹事務所 2018



913.6 1

中国史上初の天下統一を成し遂げ、厳正な法を以て大国を治めようとした秦の始皇帝。その興亡を腹心の部下や敵国の武将の目線から描き出す。日本の戦国時代を舞台とした作品が人気の著者による中国歴史小説。(ふっくん)

『お菓子の船』

上野 歩/著 講談社 2023



913.6 1

6歳のときに食べた祖父の作った「どら焼き」の味を再現するため和菓子職人になった和子。なかなかその味に近づく事が出来ずにいたが、戦時中に祖父が船でお菓子を作っていたと聞き、「どら焼き」につながるヒントを得る。(りんご)

『奇妙な遺産』

村主准教授のミステリアスな講座』

大村 友貴美/著 光文社 2014



913.6 1

「演出家・長谷川伸矢さん、死去」このニュースを知った純香。その彼が亡くなった大学は純香の母校だった。死の真相を知るため事件直前に彼と会っていた恩師の村主を訪れ、共に事件の真相に迫る。(Y.S)

『赤い博物館』

大山 誠一郎/著 文藝春秋 2015



913.6 1

発生から一定期間が過ぎた事件の捜査資料を保管する警視庁付属犯罪資料館。キャリア出身で美人だが不愛想な謎めいた館長と、左遷されてきた元捜査一課の刑事が、所蔵された資料や証拠品をもとに過去の事件の謎を解く。(モフモフ)

『イン・ザ・プール』

奥田 英朗/著 文藝春秋 2002



913.6 1

伊良部総合病院の地下にある「神経科」。そこにはケータイ中毒や強迫神経症等、様々な人が訪れる。だが頼りの精神科医・伊良部は患者に寄り添うどころか、とんでもない言動ばかり。果たして悩める者は救われるのか？(みんと)

『鎌倉駅徒歩 8 分、空室あり』

越智 月子/著 幻冬舎 2022



913.6 1

亡き父が経営していたカフェを継いだ香良は、離婚し家を飛び出してきた友人の一言からカフェ兼自宅をシェアハウスとして経営することになる。問題を抱えた住人たちが心落ち着ける空間を見つけていくあたかな物語。(かばちゃ)

『火車の残花』

神永 学/著 集英社 2021



913.6 1

浮雲は死者の霊が視える赤眼を持つ憑きもの落ししの青年。ある日、旅先の宿で主人の息子が霊に取り憑かれた話を耳にする。主人に頼まれ息子を救い、取り憑いている霊の思いを晴らすため奔走する物語。(TKLR)

『ヴィンテージガール』

仕立屋探偵 桐ヶ谷京介

川瀬 七緒/著 講談社 2021



913.6 1

美術解剖学と服飾の知識によって服のシワを見ただけでその人の怪我や病気、骨格や筋肉の特徴が分かる仕立屋桐ヶ谷。10年前の未解決事件の遺留品である奇妙な柄の洋服を目にし、自らの能力で真相に迫っていく物語。(茶トラ)

『母子草の記憶』

小杉 健治/著 双葉社 2022

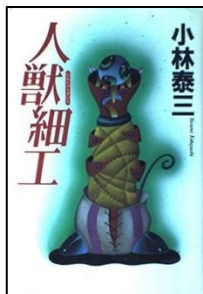


913.6 1

作家の草下は中学生の時に両親を何者かに殺害された辛い過去をもつ。自身を題材に執筆する決心をした矢先、自宅近くの公園で両親の事件の鍵をにぎる男が死体で発見される。草下は過去と現在の事件の真相を追う。(パセリ)

『人獣細工』

小林 泰三/著 KADOKAWA 1997



913.6 J

先天性の病気で度重なる移植手術を受けてきた少女・夕霞。肌の露出を避けて過ごすのは、身体中の傷痕を隠すためだが、その縫い目の下、夕霞の体内にはブタの臓器が移植されていて……(「人獣細工」)。他2編。(T.T)

『先生と僕』

坂本 司/著 双葉社 2007

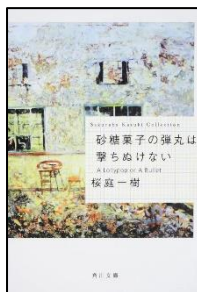


913.6 ㄱ

怖がりな大学生・二葉は、ひょんなことから聡明な中学生・隼人の家庭教師をするに。瞬間記憶能力を持つ二葉とミステリー小説好きで推理が得意な隼人。凸凹コンビが力を合わせて日常の謎を解き明かす。(I.K)

『砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない』

桜庭 一樹/著 KADOKAWA 2009



913.6 ㄱ

母と兄との3人暮らしのなぎさと、自分を人魚と語る転校生の藻屑。奇妙な友情を深めていたふたりに無情にも残酷な事件が起きようとしていた。虐待、引きこもり、ヤングケアラーなどの社会問題をテーマにした一冊。(ノラネコ)

『身の上話』

佐藤 正午/著 光文社 2009



913.6 ㄱ

地方都市の老舗書店で働くミチルは、浮気相手の男に同行し衝動的に東京へ向かう。その時同僚に頼まれて購入した宝くじが当選したことで人生の歯車が狂い始める。後に夫になる男により淡々とした口調で語られる懺悔の物語。(ノラネコ)

『若冲』

澤田 瞳子/著 文藝春秋 2015



913.6 ㄱ

京の商家の長男・源左衛門は家督を弟たちに譲り、自室に引きこもり絵を描き続ける。後に若冲と名乗り、数々の名作を生み出していく。同時期に活躍した絵師たちとの交流とともに、若冲の作品とその思いを綴る歴史小説。(わいわい)

『岳物語』

椎名 誠/著 集英社 1989



913.6 ㄱ

著者と保育士の妻との間に生まれた長男、岳。勉強はそっちのけで遊んでばかりの岳が夢中になったのは釣りだった。岳を主人公に椎名家で巻き起こる出来事を愉快に描いた著者初の私小説。(菅さん)

『千の扉』

柴崎 友香/著 中央公論新社 2017



913.6ㄱ

入院中の義理の祖父が暮らしていた団地の一室に移り住んだ千歳。彼から人探しを頼まれ、団地内のどこかで暮らす住人を探し回る。千歳が出会う入居者たちの過去と現在、そして「土地の記憶」を描いた物語。(T.T)

『観覧車』

柴田 よしき/著 祥伝社 2003



913.6ㄱ

探偵事務所を営んでいた夫はある日忽然と姿を消した。唯は夫が失踪した事実から目を背け、自らも探偵として仕事をする中で出会う様々な事情を抱えた人たち。待ち続けることの苦しみを描く連作短編集。(菅さん)

『カタストロフ・マニア』

島田 雅彦/著 新潮社 2017



913.6ㄱ

新薬の治験で2週間眠っていた主人公が目覚めると、人類が消えていた。太陽フレアにより電力供給網が壊れ、さらに未知のウイルスが蔓延した東京で、想いを寄せる看護師の行方を追ううちに惨禍の真実に近づいてゆく。(ふっくん)

『同姓同名』

下村 敦史/著 幻冬舎 2020



913.6ㄱ

凶悪事件の犯人と同姓同名であったことから謂れない誹謗中傷を受け人生が大きく狂った人々。被害者の会を立ち上げ各々の人生を取り戻そうとするが、次第にその中には別の思惑を持った人物がいることがわかってくる。(おこめ)

『幸せのプチ 町の名は琥珀』

朱川 奏人/著 日本経済新聞出版社 2016



913.6ㄱ

昭和の下町「琥珀」が舞台の人情味あふれる連作短編集。余命わずかと知った中年男が、過去に恋人と暮らした苦い思い出のある町を訪れる「追憶のカスタネット通り」他、全編に不思議な白い犬「プチ」が登場する。(パセリ)

『縁切り上等！』

離婚弁護士 松岡紬の事件ファイル

新川 帆立/著 新潮社 2023



913.6ㄱ

弁護士の松岡紬は北鎌倉の縁切り寺の娘。モラハラ夫、浮気、熟年離婚、同性カップルが抱える縁切りの問題を、かわいらしい見た目とは裏腹にシビアな洞察力で解決していく。人生の再出発へ背中を押してくれる。(パセリ)

『ダーク・ブルー』

真保 裕一/著 講談社 2020



913.6 ヨ

日本の海洋調査船が、フィリピン海上で武装集団の襲撃を受け占拠される。彼らの目的は、潜水調査船を使い深海に沈んだ「宝」を取り戻すことだった。仲間を救うため、女性副操縦士・大畑夏美は、命を賭けた潜航に臨む。(わんこ)

『ゴリラ裁判の日』

須藤 古都離/著 講談社 2023



913.6 ス

言葉を理解し、手話を用いて会話することができる天才ゴリラのローズ。動物園の柵の中に子どもが落下したことにより、夫ゴリラが射殺されてしまう。納得できない彼女は法廷で争うことに。ローズという女性の生き様を描く。(わいわい)

『あと少し、もう少し』

瀬尾 まいこ/著 新潮社 2012

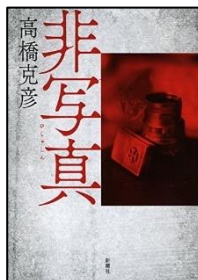


913.6 セ

陸上部部長を務める梶井は、寄せ集めメンバーたちと全県大会出場を目標に、中学最後の駅伝大会に出場する。襷に各々の思いを乗せた走者の心情が綿密に描写されており、読み進めるごとに胸が熱くなる青春小説。(かぼちゃ)

『非写真』

高橋 克彦/著 新潮社 2014



913.6 タ

写真をテーマにしたホラー短編集。膨大な量のレンズとカメラから靈魂を写す組み合わせを発見する「合掌点」、自身の生きた証となる写真を求めた男の壮絶な最期を描く「遠野九相図」など9編を収録。(ふっくん)

『あかずの扉の鍵貸します』

谷 瑞枝/著 集英社 2021



913.6 タ

まぼろし堂と呼ばれる、北鎌倉にある金木犀が香る洋館には「あかずの扉」の鍵を貸す幻堂という男がいる。育ての母のために開かずの間を探し、男のもとを訪ねた朔実は、恩人の過去、隠したいものを知る。(まめた)

『仲達』

塚本 青史/著 KADOKAWA 2009

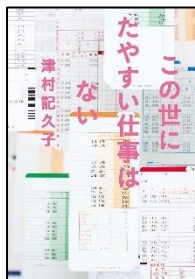


913.6 ツ

三国志では冷酷な悪役として描かれる司馬仲達を主人公とした物語。魏の権力者たちに重用された仲達。諸葛亮が率いる蜀軍や、皇帝・曹叅亡き後の国内を支配しようとする佞臣に権謀術数を用いて立ち向かう。(T.T)

『この世にたやすい仕事はない』

津村 記久子/著 日本経済新聞出版社 2015



913.6 ヲ

求職中の主人公が紹介される仕事は独特なものばかり。業務内容や人間関係に翻弄され、短期間で職を転々とするものの、日々真面目に勤しむ姿を描く。どんな仕事も等しく難儀で厄介なものだと思わされる作品。(T)

『川のほとりに立つ者は』

寺地 はるな/著 双葉社 2022



913.6 ㊦

恋人が怪我をしたと病院から連絡が入った。意識不明の松木に何があったのかを調べるなかで、清瀬は松木のことを何も知らないことに驚愕する。ちゃんと生きてきたつもりの清瀬が自分の狭量さに気づき成長していく物語。(管さん)

『いも殿さま』

土橋 章宏/著 KADOKAWA 1995

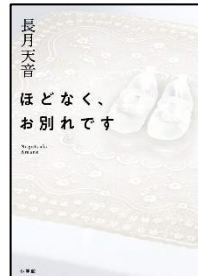


913.6 ド

藤十郎が仕える勘定方・井戸平左衛門は欲がなく、食道楽で甘いものに目がない。隠居生活に心躍らせていたが飢饉が続く石見銀山へ任命される。民の声を聞き、石見の民から「いも殿様」と慕われた平左衛門が執った施策とは。(ばなな)

『ほどなく、お別れです』

長月 天音/著 小学館 2018



913.6 ㊦

葬儀場で働く美空は死者が見えるという能力をもつ。その力で、死を受け入れられないまま亡くなった人々の旅立ちを手助けしていく。遺族の悲しみに寄り添い、死者の思いを繋ごうと奔走する美空たちの姿が印象的な一冊。(ゆこりん)

『悪意の手記』

中村 文則/著 新潮社 2005



913.6 ㊦

15歳で重篤な難病に侵された主人公は、壮絶な闘病生活により心神を喪失していた。退院後も歪んだ死生観は消えず殺人を犯してしまう。なぜ人を殺してはいけないのかという永遠の課題を問いかける一冊。(ノラネコ)

『家守綺譚』

梨木 香歩/著 新潮社 2004



913.6 ㊦

亡き友の実家の管理を任された、売れない物書きの綿貫。庭の花木を気まぐれにかまっていたところ、掛軸から亡き友が現れ「サルスベリのやつが、おまえに懸想している」と告げる。不可思議な出来事を季節の美しい草花と共に描く。(I.K)

『今日のごちそう』

橋本 紡/著 講談社 2012



913.6 Ⅱ

嬉しいことがあった幸せな日も、悲しく気分が落ち込んだ日も、生きるために平等にお腹は減る。コンビニの弁当から手の込んだローストチキンまで、様々な料理を通じて人々の日常を垣間見るような短編集。

(かばちゃ)

『若葉荘の暮らし』

畑野 智美/著 小学館 2022



913.6 Ⅱ

世界的感染症の影響により収入が減少したミチルは、40歳以上の独身女性限定シェアハウス「若葉荘」へ引っ越すことにする。共に暮らす個性豊かな住人たちと支え合いながら、自分にとっての本当の幸せを探していく物語。(かばちゃ)

『たわごとレジデンス』

原 宏一/著 祥伝社 2023



913.6 Ⅱ

舞台はセレブシニアが入居する介護付き高級マンション。元高校教師で持論を展開する幸介、紫色のショートヘアで元映画監督の瀬戸崎など癖の強い老人たちと、振りまわされる若いスタッフの人間模様を描いた連作短編集。(こたら)

『リボルバー』

原田 マハ/著 幻冬舎 2021



913.6 Ⅱ

ゴッホとゴーギャンの研究者である冴が働くオークション会社に、ゴッホが自殺に使ったとされる拳銃が持ち込まれる。拳銃とゴッホの死の関連を探り、たどり着いた真実には同じ時代を生きたゴーギャンが深く関わっていた。(おこめ)

『純喫茶「一服堂」の四季』

東川 篤哉/著 講談社 2014



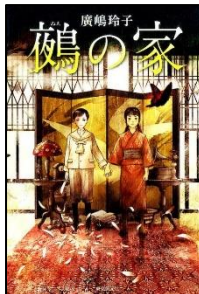
913.6 Ⅲ

鎌倉にひっそりとたたずむ喫茶店「一服堂」の店主・ヨリ子は、話を聞くだけで事件を解決してしまう安楽椅子探偵。一服堂に持ち込まれる春、夏、秋、冬の4つの謎を、人見知りの店主が解き明かすミステリー。

(まめた)

『鶴の家』

廣嶋 玲子/著 東京創元社 2019



913.6 Ⅲ

遠縁にあたる天鶴家に、後継ぎ息子の遊び相手として迎えられた少女・茜。豪華な屋敷に暮らす資産家一族の秘密を知った茜は、代々この家の子どもたちを襲う呪いを終わらせるため立ち上がる。時代ホラーファンタジー。(I.K)

『スタッフロール』

深緑 野分/著 文藝春秋 2022



913.67

アナログとデジタル、映画作りにはどちらの技術が重要か。80年代の特殊造形師と現代のCGアニメーターのふたりを主人公に特殊効果の変遷を追う。映画に強く焦がれながらも才能の限界に悩むクリエイターたちの物語。(ふっくん)

『メイド・イン・京都』

藤岡 陽子/著 朝日新聞出版 2021



913.67

ものづくりをしたい高揚感が高まった美咲は、ミシン系で刺繍をしたTシャツを製作する。Tシャツはバイヤーの目に留まり、展示販売をすることになり……。人の心を満たす洋服づくりと、女性の生き方について考える小説。(T.T)

『団地のふたり』

藤野 千夜/著 東京U-NEXT 2022

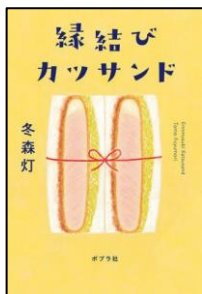


913.67

イラストレーターの奈津子と大学の非常勤講師の野枝。ふたりは築60年の団地で育った幼なじみ。共に現在50歳で、一度団地を離れたものの今は独身で団地に戻ってきた。平凡だけど温かくユーモラスな友情の物語。(まりも)

『縁結びカツサンド』

冬森 灯/著 ポプラ社 2020



913.67

パン屋「ベーカリー・コテン」の3代目の和久は、店を継ぐべきか否か日々悩んでいた。しかし、店を訪れる客らとの触れ合いの中から新たな商品が生まれるなど、少しずつ活路を見出していく。パンが紡ぎ結ぶ人の縁の物語。(T)

『平家物語 犬王の巻』

古川 日出男/著 河出書房新社 2017



913.67

神器の切先を見たことで盲し、琵琶法師となった壇ノ浦の友魚。母親が悲鳴を上げるほどの異形な姿で生まれた近江猿楽の棟梁の子である犬王。このふたりが出会い、新たな猿楽が生まれ平家物語の異聞・犬王の巻が語られる。(わいわい)

『WILL』

本多 孝好/著 集英社 2009



913.67

両親を事故で亡くし家業の葬儀屋を継いだ主人公・森野のもとには、仕事の依頼とともに不思議な相談が舞い込む。謎を解決しようと、彼女は故人や遺族のため日々奔走する。死者を送ることについて考えさせられる作品。(T)

『まもれ最前線！』

神家 正成・山本 賀代・福田 和代/著
光文社 2023



913.6マ

コロナ、閉鎖空間、領空侵犯。過去に類をみない危機的状況の中、自衛官たちは悩み、苦しみ、それでも前に進むうともがく。人々を守るために最前線に立つ、陸海空それぞれの自衛隊員の目線で描かれたアンソロジー。(砂糖さん)

『跡を消す』

前川 ほまれ/著 ポプラ社 2018



913.6マ

孤独死や事件があった場所を清掃する特殊清掃という仕事をテーマに、生きることの意味、働くとは何かを考えさせられる作品。生々しくリアルな現場の描写が衝撃的で特殊清掃業の過酷さも教えてくれる。(ゆこりん)

『零から0へ』

まはら 三桃/著 ポプラ社 2021

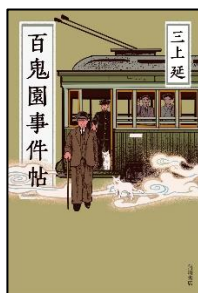


913.6マ

かつて零戦を作っていた技術者たちは、戦時中に多くの人を死に追いやった苦い経験を経て、平和と戦後復興の象徴となる新幹線の開発に挑む。不可能と思われるれていた東京-大阪間を数時間で結ぶため数々の困難に立ち向かう。(パセリ)

『百鬼園事件帖』

三上 延/著 KADOKAWA 2023



913.6ミ

平凡な大学生の甘木は、大学教授で作家の内田榮造(百間)と親しくなる。偏屈で変わり者の先生と交流する中で、様々な怪異に巻き込まれていく。百間と交流のあった文豪も登場する作家愛あふれるミステリー。(わいわい)

『きのね(上・下)』

宮尾 登美子/著 朝日新聞社 1990

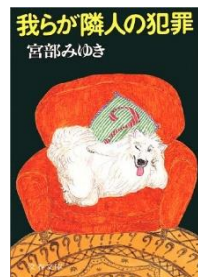


913.6ミ

光乃は歌舞伎役者の家に女中奉公に上がり、長男の雪雄付きとなる。のちに事実上の夫婦となりふたりの子どもをもうけるが、女中として戦中戦後を通して献身的に雪雄に仕える。梨園を舞台に実話に基づいて書かれた長編小説。(モフモフ)

『我らが隣人の犯罪』

宮部 みゆき/著 文藝春秋 1993



913.6ミ

家族4人で新居に引っ越してきた中学1年生の誠は、隣家の飼犬の鳴き声に日々悩まされてしまう。そこで彼は、その犬をさらってしまおうと計画するのだった。著者デビュー作の表題作ほか4篇を収録した短編集。(T)

『星屑』

村山 由佳/著 幻冬舎 2022



913.6 ㍲

芸能事務所に勤める桐絵はライブハウスで出会った16歳のミチルの歌声に魅了される。デビューに向けライバルとの衝突や厳しいレッスンを経て成長するミチル。昭和の芸能界を舞台にスターを目指す少女の青春物語。(ゆこりん)

『かぜまち美術館の謎便り』

森 晶磨/著 新潮社 2020



913.6 ㍲

東京から香瀬町(かぜまち)に越してきた学芸員のパパと保育園児の娘が、町の困りごとを解きほぐしていく物語。絵画の巨匠たちの名画や名言が問題解決のヒントになり、美術鑑賞にも興味が湧いてくる一冊。(砂糖さん)

『獣の夜』

森 絵都/著 朝日新聞出版 2023



913.6 ㍲

35歳になる美也にサブライズパーティーを予定する紗弓。会場に向かう途中ふたりはジビエ・フェスタの匂いに誘惑され、迫る時間に目もくれず獣のように肉を喰らい尽くす。不意に世界が揺らぐ瞬間を鮮明に描いた、7編の作品集。(おから)

『終活ファッションショー』

安田 依央/著 集英社 2012

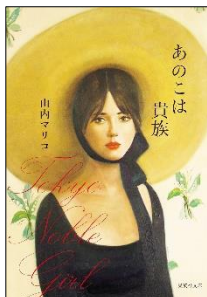


913.6 ㍲

死に装束のファッションショー「終活ファッションショー」の企画を機に、出演者たちは人生の終わりではなく、人との繋がりがりや過去を見つめ直すきっかけを得る。自分らしくあることは大切だと気付かせてくれる作品。(砂糖さん)

『あのこは貴族』

山内 マリコ/著 集英社 2016



913.6 ㍲

小学校から大学まで名門女子校の榛原華子。地方出身で貧乏な外部生だった時田美紀。正対なふたりの人生がひとりの男性をきっかけに交わっていく。結婚をテーマに迷いつつも成長していく女性たちの姿を描いた物語。(こたら)

『花鳥の夢』

山本 兼一/著 文藝春秋 2013



913.6 ㍲

安土桃山時代の絵師狩野永徳が絵に一生を捧げた物語。長谷川等伯との出会いにより気づいた己の中に渦巻く複雑な感情。一族を背負う重圧の中、信長達の求めに応じ、苦悩と歓喜の中で自身の道を拓いていく。(あーさん)

『GO! GO!アリゲーターズ』

山本 幸久/著 集英社 2012

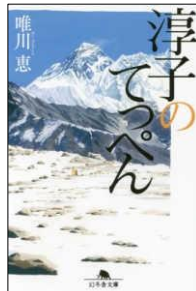


913.6ヤ

独立リーグ弱小球団のアリゲーターズに再就職した茜。事務作業に球団マスコットの着ぐるみの中の人など便利屋状態の毎日。成績も経営も不振の中、個性豊かな選手やスタッフと共に日々奮闘するお仕事小説。(Y.S)

『淳子のてっぺん』

唯川 恵/著 幻冬舎 2017



913.61

小学4年で山に魅了され、大人になり数々の困難を乗り越えて、女性初のエベレスト登頂という偉業を成し遂げた登山家・田部井淳子。ひたむきに山に向き合い続けた人生を、自身も山に登る著者が小説化。(りんご)

『我、天命を覆す』

結城 光流/著 KADOKAWA 2010



913.61

神の存在である十二神将を自らの式神とすべくさまざまな土地をめぐる清明。一筋縄ではいかず翻弄されるも、式神となった彼らの後ろ盾は強力だった。清明は陰陽師の仲間とともに、さらなる強大な敵に立ち向かってゆく。(砂糖さん)

『本屋さんのダイアナ』

柚木 麻子/著 新潮社 2014



913.61

「大穴」(ダイアナ)という名前、金色のパサパサ髪の女の子。自分の中にある孤独から抜け出せず本と親友の彩子だけが幸せを与えてくれた。自分の理想と現実の差を感じながらも少しずつ大人へと成長していく物語。(きなこ)

『オロマップ』

吉村 龍一/著 講談社 2014



913.63

サラブレッドの腹には一直線に裂かれた傷が残っていた。警察は罠の爪に因るものとして罠出沒警報を出す。森林保護観察官の樋口孝也には数々の疑問点が残る(「裂傷」)。北海道の大自然を舞台にした全6編。(T.T)

『7日間の人生レッスン』

米山 公啓/著 マガジンハウス 2010



913.63

医師の仕事にやりがいを見いだせなくなっていたキミヒロに、亡き父の友人だという館林が「遺言」として伝えたのは、前を向いて進んでいくためのヒントだった。7つのメッセージに込められた父の優しさを感じる物語。(砂糖さん)

『女王』

連城 三紀彦/著 講談社 2014



913.6㍻

邪馬台国に関する日記を遺し不審な死を遂げた祖父と、卑弥呼と会話したというありえない記憶を持つ私。死の真相と記憶の謎を探す旅は1700年の時を超え、やがて魏志倭人伝に秘められた邪馬台国所在地の謎に迫る。(まる。)

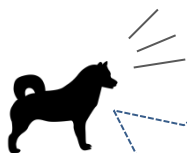
『小太郎の左腕』

和田 竜/著 小学館 2009



913.6㍿

1556年の戦国期。山中の村で祖父の要蔵と暮らす少年小太郎。左構えの銃を手にしたことから戸沢家と児玉家の戦いに巻き込まれていく。両陣営の運命を握る小太郎に対し、戸沢家の武将半右衛門のとった行動とは……。 (みんと)



ここからはエッセイやノンフィクションのジャンルから選んだおすすめ本です

『絲的メイソウ』

絲山 秋子/著 講談社 2006

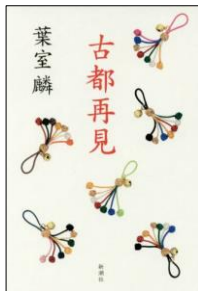


914.6㍿

芥川賞作家が2003年のデビュー後、翌年から2年間の雑誌連載をまとめた初のエッセイ集。著者の思考も嗜好も盛りだくさんの抱腹エッセイ。「禿礼賛」の章では禿げの魅力を真面目に語る。横手市雄物川町の光頭会も紹介されている。(菅さん)

『古都再見』

葉室 麟/著 新潮社 2017



914.6㍿

数々の時代小説を世に送り出した著者によるエッセイ。晩年、歴史的事件の舞台となった京都に仕事場を構え執筆活動を行いながら、これまで思案したものを、時代背景、文化、人物像などから迫り多角的に綴っている。(T)

『小さなひとり暮らしのものがたり』

みつはし ちかこ/著 興陽館 2022



914.6㍿

50年以上も続くロングセラー漫画『小さい恋のものがたり』のみつはしさんは、配偶者に先立たれ一人暮らし。それでも病気と上手に付き合いながら、80歳を過ぎた今も元気に前向きに楽しむ毎日を綴ったエッセイ。(モフモフ)

『無人島のふたり』

山本 文緒/著 新潮社 2022



915.6ヤ

2021年に末期の膵臓癌と診断された著者が緩和ケアを経て亡くなる直前まで綴った日記。「ふたりで無人島に流されたよう」と例えた夫との闘病の日々は最期まで作家であろうとした熱意と多くの人たちへの感謝で溢れている。(おこめ)

『自由の丘に、小屋をつくる』

川内 有緒/著 新潮社 2023



916カ

40代で母になった著者は子どもが生まれたことで心境に変化が起き、自分たちで小屋を作りたいと思い立つ。不器用ながらも多くの人に助けられ4年の歳月をかけ小屋を製作する。ユーモアあふれるものづくりの記録。(わいわい)

『兄の終い』

村井 理子/著 CCCメディアハウス 2020



916ム

警察からの突然の電話は兄の訃報の知らせだった。憎かった兄の人生の後始末のため宮城へと向かった筆者。汚れ切ったアパートの片付けから行政手続きまで、すべてを最短で終わらせるべく奔走した妹の5日間の記録。(I.K)

『〈レンタルなんもしない人〉というサービスをはじめます。』

レンタルなんもしない人/著 河出書房新社 2019



916レ

ひとり分の人間の存在をレンタルする以外何もしない。そんな一風変わったサービスを生み出した著者が、寄せられた多くの依頼を通して「何もしない」ことの価値、そこに人は何を求めるのかを独自の視点で語る。(おこめ)

『わたしに無害なひと』

チエ・ウニョン/著 古川 綾子/訳 亜紀書房 2020



929.1チ

人と人との関係がテーマの短編集。大切な人と思う気持ちが上手く伝えられなかったりすれ違ったり、苦悩の描写が重く描かれている。韓国社会固有の問題も加わり、必死にもがく主人公たちが見つける小さな希望に引き込まれる。(菅さん)



ここからは外国の作家による作品から選んだおすすめ本です

『ロボット・イン・ザ・ガーデン』

デボラ・インストール/著 松原 葉子/訳
小学館 2017

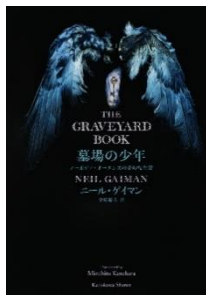


933.74

両親が亡くなった悲しみから抜け出せずにいるベンは、妻とふたり暮らし。ある日、裏庭で壊れかけたロボットのタングを見つける。タングの多感で繊細な心に触れ興味をもったベンは、修理をするために作り主を探す旅に出る。(りんご)

『墓場の少年』

ニール・ゲイマン/著 金原 瑞人/訳
KADOKAWA 2010



933.7ゲ

一家惨殺の夜、ひとり生き残った赤ん坊はよちよち歩きで古びた墓地に迷い込んだ。心優しい幽霊たちの庇護のもと、赤ん坊が人ならざる者たちと交流する様子や鬼が住む国での冒険を描いたダークファンタジー。(まる。)

『わかっていただけますかねえ』

ジム・シェパード/著 小竹 由美子/訳
白水社 2016



933.7シ

全てが一人称で語られる短編集。フランス革命期の死刑執行人やソ連の女性宇宙飛行士など様々な年代の歴史的出来事・事件の主人公たちが、自らのエピソードを紹介しながらその背景にある普通の生活や心情を綴る。(まる。)

『はじまりの 24 時間書店』

ロビン・スローン/著 島村 浩子/訳
東京創元社 2021



933.7ス

地方大学の図書館員ペナンプラ。彼に課された使命は長い間行方不明の本『テクニ・タイキオン』を探しだすこと。困り果てた彼がたどり着いたのはサンフランシスコにある小さな書店だった。不思議な本探し冒険小説。(こたら)

『そしてミランダを殺す』

ピーター・スワンソン/著 務台 夏子/訳
東京創元社 2018



933.7ス

実業家のテッドは空港のバーで見知らぬ美女リリーと出会い、酔った勢いで浮気をしている妻のミランダを殺す計画を立てていることを打ち明けてしまう。驚くことにリリーはそれに同調し自ら協力を申し出てきたのだった。(ノラネコ)

『あの本は読まれているか』

ラーラ・プレスコット/著 吉澤 康子/訳
東京創元社 2020



933.7プ

冷戦時代のアメリカがソ連の内部崩壊を狙って遂行した「ドクトル・ジバゴ作戦」をもとにしたCIA 女性スパイたちの愛の物語。女性への差別、偏見が今よりずっと強かった時代に逞しく生きようとする姿が描かれている。(まる。)

『ミッドナイト・ライブラリー』

マット・ヘイグ/著 浅倉 卓弥/訳
ハーバーコリンズ・ジャパン 2022



933.7ハ

人生に絶望し自死したはずのノーラの前に現れた真夜中の図書館。どこまでも続く書架にはノーラの別の人生が綴られた本が並べられていた。人生の選択に正解はないんだと優しく勇気づけてくれる長編ファンタジー小説。(コテテ)

『やんごとなき読者』

アラン・ベネット/著 市川 恵里/訳
白水社 2009



933.7ハ

英国女王エリザベスは散歩の途中に移動図書館から本を借りたことで読書に夢中になる。公務が疎かになると心配する側近をよそに益々読書にのめり込むエリザベス。作中で彼女が読んだ本として多数の名著が登場する。(ゆこりん)

『星を継ぐもの』

J・P・ホーガン/著 池央 耿/訳
東京創元社 1980



933.7ホ

月面から赤い宇宙服を着た遺体が見つかる。彼は5万年前の人間であると分析された。あらゆる分野の学者がその謎の解明に挑む中、今度は木星で巨大な宇宙船が発見される。「巨人たちの星」シリーズの第1巻。(ふっくん)

『グレイス・イヤー』

キム・リグgett/著 堀江 里美/訳
早川書房 2022

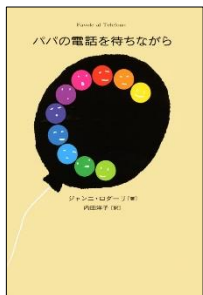


933.7リ

ガーナー郡では少女は魔力を持つとされ、16歳になる年に森の奥のキャンプへ追放される“グレイス・イヤー”という風習がある。生死を懸けた通過儀礼にひとりの少女が立ち向かう。女性蔑視に疑問を呈するフェミニズム小説。(ノラネコ)

『パパの電話を待ちながら』

ジャンニ・ロダーリ/著 内田洋子/訳
講談社 2009

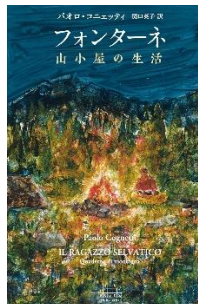


973ロ

イタリアを旅しながら菓子を売るビアンキさんは、毎晩9時になると娘に電話をかける。おやすみ前に話してあげた物語を集めた短編集。前を向いて歩こうとするエビや、旅行家のジョバンニーノのお話など56編。(まめた)

『フォンターネ』

パオロ・コニエッティ/著 関口 英子/訳
新潮社 2022



974コ

都会で生活する30歳の著者は、10年ぶりに山に向かった。生き物たちの気配、こぼこぼと流れる水の音、そして静寂がもたらす孤独。まるで体験しているかのような繊細な描写が印象的な山小屋暮らしを綴ったエッセイ。(こたら)



ヨコワン 2024
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2024 年 10 月 25 日

横手市立図書館
【問合せ】
図書館課(横手図書館)
〒013-0036 横手市駅前町 2-12 電話 0182-32-2662

